

『ひろしま・ブルガリア協会』の皆様へ

在ブルガリア日本国大使の伊藤です。昨年10月の着任後に第21回日本文化月間、本年1月下旬にはボイコ・ボリソフ首相の訪日と、私にとって極めて充実した半年間となりました。ボリソフ首相は、今次訪日を両国関係の新たな時代の幕開けに、との意気込みを示すべく、4名の閣僚、5名の国会議員、経済界の代表団、ジャーナリストを含め総勢70名を越える一行を伴って訪日されました。皇太子殿下への御接見、首脳会談の他、衆参両院議長、経済界の要人等とも会談を行い、今後も各分野で両国間の協力関係を強化していくことが確認され、首相サイドからは、特に直接投資を含む経済交流の活発化への期待が示されました。この訪問を契機に、私としても二国間関係の更なる発展の為に尽力してまいり所存です。

一方で、このような要人往来をはじめとする国家間同士の対話に加え、産業や地方連携等の民間交流が、新しい時代に入った両国の関係発展にとって益々重要となってきています。『ひろしま・ブルガリア協会』は、長年に亘るカザンラック市との友好関係に基づく文化交流や、原爆展開催を通じた日本理解促進、広島大学医学部とソフィア大学医学部をはじめとする学術交流の推進、さらにはソフィア市聖イヴァン・リルスキ児童養護施設に対する薬の寄贈をはじめとする福祉面での支援等、様々な分野で二国間の友好関係進展のためご尽力されていらっしゃると思います。私自身、当地への着任直後の昨年10月に第六次訪問団の皆様と当地でお会いしましたが、今回、私が広島を訪問した際には皆様方と懇談する機会が得られ、暖かく歓迎していただき本当にありがとうございました。貴協会の益々のご活躍を期待しております。

特に原爆展に関しては、『ひろしま・ブルガリア協会』の皆様は、これまで4都市にて開催をされてきましたが、毎回ブルガリアの方々に、原爆の悲惨さと、これを繰り返してはならないとの強い願い、そして平和の尊さを伝える大変よい機会になってきました。1月下旬には私自身も、原爆記念ドーム及び平和記念資料館を再訪する機会に恵まれましたが、唯一の被爆国としてこの悲劇を人類の記憶に留めることが、我が国の使命であるとの想いを新たにしました。本年は6月にプロヴディフにて開催を予定されていると承知しております。これまでの皆様のご活動に対し心より敬意を表すとともに、今後も皆様のご活動を通じ、平和への思いが当地でも更に高まることを期待しております。

2011年は首相訪日という大きなイベントと共に幕開けしました。これを契機に、今後とも両国の友好関係発展のために最善を尽くす所存であります。

最後になりましたが、『ひろしま・ブルガリア協会』の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

在ブルガリア日本国大使館

特命全権大使 伊藤 誠